

回胴倒錯者

- PACHISLO FREAK -

革命児

そうこうしているうちに、スロットを始めから1年が過ぎていた。目押し技術、知識、いろいろな判断要素が加わり、収支は必ず毎月プラスになっていた。収支を必ず毎日付けるのは、わが師であるコニさんからきつく言われていた。「勝った記憶は深く残るが、負けた記憶は誰かが忘れたもの、だから忘れちまう。戒めの為にも必ず収支表は付ける。それが勝利への近道でもある。これが理由だった。そしてコニさんとも変わりなく大抵は一緒に打っていた。

95年夏、燦々と太陽が照らし、むせ返るような暑い日だった。いつものようにP店でフリツパーを打っていると、後ろからコニさんが現れ、少し興奮したような声で話しかけてきた。「大変な機種が出たぞ！設定1でも勝ててしまう機種や！ちよっとだけ技術はいるが、自分なら大丈夫やろう。A店に入ったらしいから、今から行って見ないか？」。設定1でも勝てる？そんなミラクルな機種？店の儲けは「ちよと？」。「マーク気味だったが、コニさんの言うことだから間違いない。急いでA店に行ってみた。

A店には私の方が先に到着したのか、コニさんの姿はまだなかった。そしてそこには青い筐体の機種がスロットと1列導入されていた。この機種こそがスロット界の一大革命児「ユニバーサル販売(現アルゼ)の「クランキーコンドル」である。適当に打っていたら、高設定域でも勝つのは厳しい反面、技術を駆使すればなんと設定1でも出率10.4%位になってしまうのだ。この機種は間違いなく私のスロット人生において、もっとも回した機種だろう。上段青7テンパイを筆頭とするリーチ

目やリール制御においても人気の機種だった。販売台数においては、ニールに次ぐ2位まで上昇し、瞬く間に全国各地に広がっていった。現在は北斗の拳が圧倒的1位で不動の首位になっているが、スロット界に与えた影響は遙かにコンドルの方が大きいのは間違いない。スロットと言えればリプレイハズシはなくてはならないもの。現存の4号機にもほとんどの機種でリプレイハズシが楽しみの1つとなっている。このリプレイハズシの火付け役がこの「クランキーコンドル」だからである。

この日は満席で、座ることができずにボーッと見ていると、コニさんがコーラを片手に現れた。そのコーラを私に手渡ししながら、「この機種にはリプレイハズシつてのがあって、BIG中のジャックインをわざと外して小役ゲーム中に枚数を稼ぐんや。まあ、ニューパルとかもできたんやけど、効果が薄いし難しかったから言わなかった。しかしこの台は1回のBIGで40〜50枚は増える、1日打てば25回は当たるやろ、そうすると1,000枚以上は余分に出るつてことや。そう、現代こそリプレイハズシは「しなければ損するもの」であるが、この時代は、「すれば得するもの」だったのである。

2人で並んで空き台ができるのを待っていたが、なかなか空きができる様子もなく、この日は打つのを諦め明日の朝でA店に並ぶことを約束し、帰路についたのだ。

翌日、9時半にA店に到着。平日というところもあり、私の前には10人程しか並んでいなかった。コンドルは20台あるからなんとか座れそう。そんなことを考えていると、片手にコーラを持ってコニさんが現れた。そのコーラを私に手渡ししながら、「おはよう、早いな。今日は様子見やから、適当に選んで座つ



設定判別DDT打法リプレイハズシを世に知らしめるなど、パチスロ界に多大なる影響をおよぼした名機(中の名機)。

てくれ。俺は隣に座るわ。どうせ選ぶ余裕なんてないしな。「コニさんが隣に来てくれれば心強い。なにせ、昨日雑誌である程度の予習はしたが、一夜漬けであり、ハズシの経験など皆無な私は、不安でいっぱいだったからである。頭の中で、ハズシの方法を思い描いていると、間もなく開店し、皆が一斉に走り出した。

真ん中よりやや右辺りに2台並んで座った。そして遊技開始。狙いはただだつ。これは上段青7テンパイ、通称「青テン」だ。これを狙うことによつて、全ての小役を取りこぼすことなく打つことができた。そして最も楽しく打つことができたのだ。ただし中リールには青7が2つあり、スイカ付きの方でないといふ見分けがつかない若者も多数見かけた。楽しく、そして勝つ為に毎回必ず左・中リールの2リールを目押ししていた。かなり面倒に思えるだろうが、意外にそれほどでもない。ウエイトは毎ゲームかかっていた。現代のスロットで同じことをウエイトをかけていようとすればギリギリか、もしくはできないのではないだろうか。それは、当時のスロットでは1周で必ず同じ所を止めることが可能だったのだ。(現代のスロットは、1周で止めることができる場合とできない場合がランダムになっている)

別れ

2人とも初めて打つ機種ではあったが、パシと中リールの青7さえも迷うことなく正確に目押しして、今か今かと上段にテンパイするのを待っていた。このとき既に私の目押し力はコンドルの頭の毛の数、スイカの種すら見えるレベルにあった。もちろんリールが何コマ滑ったかさえも分かっていた。横目でわが師コニさんの腕前を見る。若干早めに押しているイメージではあったが、青い7は正確に止められていた。

そしてとうとう青7テンパイ。それは私の台だった。2人が顔を見合わせ、右リールにそのまま青い7を狙う。スロットと滑ればレギュラーボーナスだが、そのまま停止しファンファーレとともにBIGボーナスが始まった。頭の中で、BIGの消化手順を思い出す、加えてコニさんに打ち方を聞く。雑誌では「最初に中リールにスイカ付きの青7を上段か中段に押

す」となっていたが、コニさんは「右に7を押す。青でも赤でもええ」そう言った。周りをみると他のスロッターたちは中リールから押していた。それでもわたしはコニさんに間違いないと思っていたので雑誌を無視し、右リールから押したのだ。私が少し怪訝な顔をしたのがコニさんには分かったのか、右から押す理由を教えてください。「右にはスイカがたくさんある。ある程度適当に押ししても問題はなし。右リールにスイカが出たときに中リールをしつかり狙えばええ。毎回しつかり中リールから狙うより、右で最初にラインを判別させるほうが楽やろ。」理論・理屈ともスロットがよく分かっている人の発言だった。試しに中リールから止めてみることもあったが、やはり右リールの方が断然楽だった。実際、このコンドルのリプレイハズシは中リール派がほとんどだったが、撤去前になるにつれ、右リール派が増えたのは間違いない。コニさんは雑誌より先に最も楽な方法を開発していたのだ。

結局コンドル初BIGでは日ごろの練習の成果か、ノミミスで無事完走。それを見てコニさんは無言だった。そしてコニさんの台もヒット。いつにない真剣な表情でBIGを消化していく。そして中・右でリプレイがテンパイ。2コマ目押しと言語現在では結構シビアな部類に入る目押しレベルが必要だったが、コニさんには余裕だろう。私はそう信じて疑わなかったが、期待に反して失敗し、ジャックインさせてしまったのだ。あまりの衝撃にどうしていいか分からなかった。コニさんは苦笑いしこちらを見ることはなかった。そしてそれ以降のBIGもミスを連発。そして言った「弟子に追い抜かれたなあ。日ごろからその上達を見てきたが、本当に上手くなったもんや。俺は何年も打つてきてこの程度。今からの時代は俺には厳しい時代になりそうや。反面、君

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。



には有利な時代になる。「少し寂しそうな表情だった。私はなんと答えていいかわからず、黙ったままだった。

その日以降コニさんに会う機会は極端に減り、そしてとうとうP店にすら顔を出さなくなっていた。そして時代はコニさんの言う通り、難易度がどんどん高くなり「技術介入時代」へ突入していた。その当時、そして今で

ホールの楽屋裏 其の四

設定変更後、設定打ち直しパート2

前回に引き続き設定変更後の特徴に含め、今回は同設定の打ち直しについてお話しします。

まず最初に最近の台には大抵「液晶」が付いています。それはもちろん演出のためなのですが、中にはその液晶を利用して設定変更を見破ることが可能な機種があります。例えば秘宝伝なら、「前日閉店前に連続演出の途中で止める」、これをしておくと、設定据え置きなら次の日の1ゲーム目から、連続演出の続きから始まるのです。これは番長においても使用可能です。ただし店側が回すこともあるので、前日の出目を覚えておくなどしておかなければいけません。参考までに、番長にはステージが2つあり(土手と棧橋)、このステージは設定変更では変わりません。例えば土手で設定変更しても土手のままという事です。一方、北斗SEでは連続演出の途中で止めても電源を切るだけで演出はなくなってしまうので使えません。しかしこちらは、設定変更すると必ずステージから始まります。このように、設定を変更すれば必ず決まったステージから始まる機種は他にも多数あ

も言われることがある「あなた程上手い人は初めて見た」と。しかしその度に私はこう答える「コニさんって人だけにはどうしても勝てませんよ。知識も技術もね」

◆次回予告◆
回胴界は技術介入激高時代に突入していく！A氏のその正確無比な技術を苦しめる機種は登場するのか？次回「革命児2」乞うご期待！

次と同設定を打つ、「打ち直し」についてですが、私の場合、期待通りの出方をしてくれなかった時に行います。例えば、6にしたのに全く出ずに閉店したとか、出すつもりもない台が連日出ているとか。これは前者も後者もいわず、本当にその設定だったのか？を確認するついでに打ち直すのです。もちろん、その他の理由として、設定変更したフリをするということもあります。が、もちろんこれらはスロットに詳しい知識人、おじいちゃんおばあちゃん、夕方からのサラリーマン、その他いろいろなお客様全員に対して常に平等でありたい(一身から、いろいろな方法を駆使して、設定変更・据え置き・打ち直しを行っているのです。